

■児童・生徒の学力の状況

○全国学力・学習状況調査から、国語では「思考力・判断力・表現」、数学では「図形」や「関数」の平均正答率が低い。英語では「思考・判断・表現」の項目の平均正答率が高い傾向があった。

○協働的な学びの場面では、積極的に意見を出し合い、活発に学習に取り組む生徒が多い。

○提出物や宿題を期限内に提出することに課題のあるなど、主体的に学習に取り組むことが十分でない生徒がいる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

○「本時のねらい」を見える形で提示し、ねらいが達成できたかを生徒自身でふりかえる時間を授業内で更に徹底する必要がある。

○学力向上につながる課題（提出物・宿題等）を設定し、期限内に提出する習慣づけを行う必要がある。

○各教科の授業において探究学習を意識した時間を設定し、「思考力・判断力・表現力」を高めるための学習時間を確保する必要がある。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

○板橋区授業スタンダードを基に「めあて」「ながれ」「まとめ・振り返り」の流れに沿った授業革新を進め、板橋区授業スタンダードSを推進し生徒の特性や学習到達度に応じた指導方法や柔軟な授業設定の研究・実践に取り組む。

○総合的な学習の時間で、職場体験や都内巡りなどの体験活動で探究的な活動を通じて主体的で協働的な取り組みを行い、自ら課題意識をもち、考え解決する力等を育成する。

○言語活動を充実させるために、各教科の授業において小集団での学び合いや、思考力、判断力、表現力等を身に付けるための主体的・対話的で深い学びの時間を意図的に設ける。

○学力の定着・向上を図るために、主体的な学習意欲の向上を目指し、毎日の授業、定期考査前の放課後や長期休業中の補充教室及び学力向上推進週間において、学力向上専門員を効果的に活用し、学習指導を充実させる。

■確かな学力の育成に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底、及び 板橋区授業スタンダードSの取組	視点2 ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「学習課題・めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。	○一人一台端末を活用した指導法の工夫やデジタル教科書を活用した個別最適な学びや教材・方法・ペース等を選択できるよう研究していく。	○3年間の見通しをもった総合的な学習の時間の目標を設定し、学校生活全般を通して生徒の主体的に探究する意欲を引き出すために、クロスカリキュラムの視点を取り入れ、全ての教員が指導にあたる。
○板橋区授業スタンダードSを推進し生徒の特性や学習到達度に応じた指導方法や柔軟な授業設定の研究・実践に取り組む。	○学習ソフト等を活用し、復習や宿題、自主学習の教材として活用する。	
	○不登校生徒対応として授業配信のためにICTを活用する。	

■MIRAI SCHOOL いたばし-教育ビジョン2035- -アクションプラン2028-の実現に向けた具体的な取組

保幼小接続・小中一貫教育の推進	豊かな心と健やかな体の育成	多様な教育的ニーズへの対応
○「学びのエリア 桜川」として、桜川小学校と小中一貫教育を推進する。	○ルールメイキングの機会を毎年設け、生徒自らが学校のきまりについて見直しや話し合いをする機会をつくり、他者を尊重しながら自分たちで決めたことを責任をもって守ろうとする主体的な態度と実行力を育成し、自己指導能力を育てる。	○生徒の能力や特性等の実態を的確に把握して指導を行う。心身の調和のとれた発達を援助するために、特別支援教育コーディネーターを中心に、学級担任や各学年特別支援担当教員、養護教諭、STEP UP教室等と連携し全校体制で特別支援教育に取り組む。
○総合的な学習の時間の「探究的な活動」において桜川小学校との研究を更に深め、小中9年間の単元配列表の確認・実施・見直しを行い、系統性のある探究活動を実践する。	○「学校いじめ防止対策基本方針」に基づき、いじめの未然防止や早期発見・早期対応に努め、発生・認知した場合は速やかにいじめ防止対策委員会を中心とした組織的対応を行う。	○特別支援教育の推進を図り、校内委員会を中心に合理的配慮や具体的な支援についての検討・理解を深め、特別な支援を必要とする生徒に対する授業内での可能な範囲での個別の声かけや教材の研究を進め、指導内容や方法が工夫できるよう教員の指導力向上を図る。
○保幼小接続・小中一貫教育コーディネーターを中心に小中合同あいさつ運動、小学生の部活動体験など様々な児童・生徒相互交流を通して、相互理解を深め、中1ギャップの解消をめざす。		